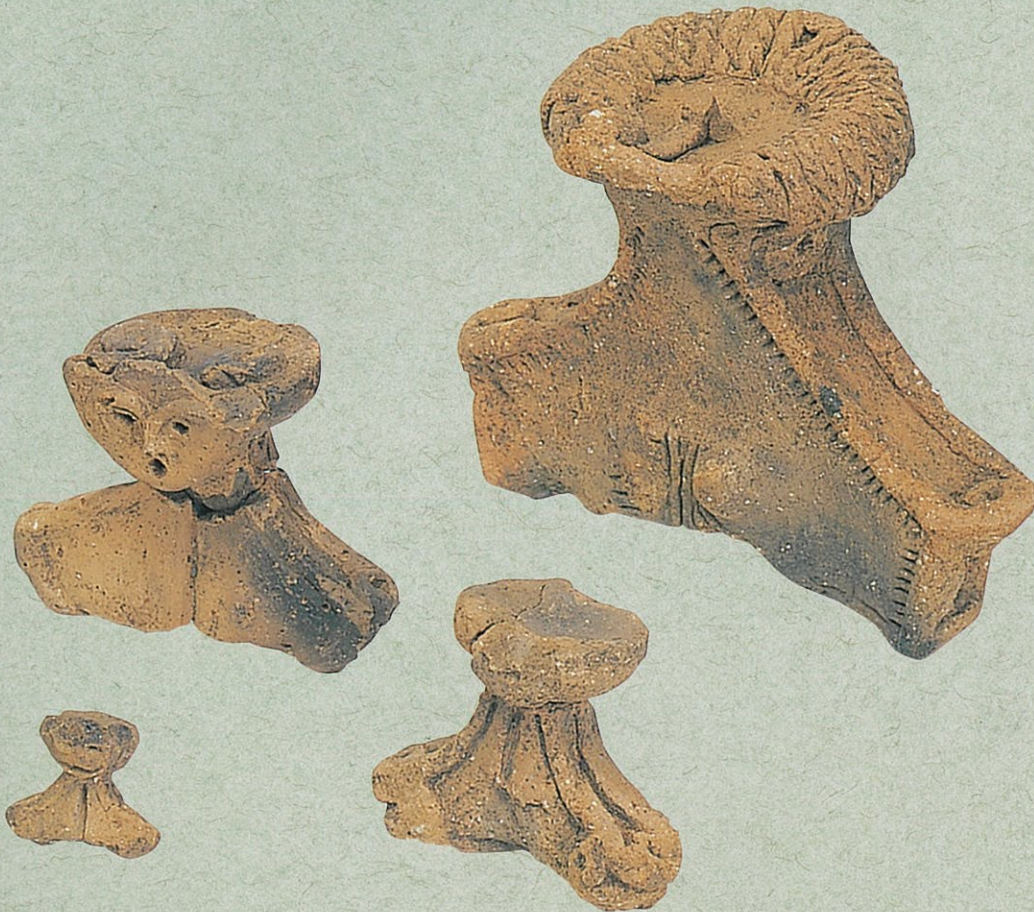



縄文時代の土偶のムラ

長山遺跡



2009年2月

富山県埋蔵文化財センター

 富山県

目 次

縄文時代の土偶のムラ <small>ながやま</small> 長山遺跡……………	1
大量にみつかった土偶 <small>どぐう</small> ……………	2
祈りの道具 土偶……………	2
他地域の特徴を持つ土器……………	4
長山遺跡の発掘調査……………	6



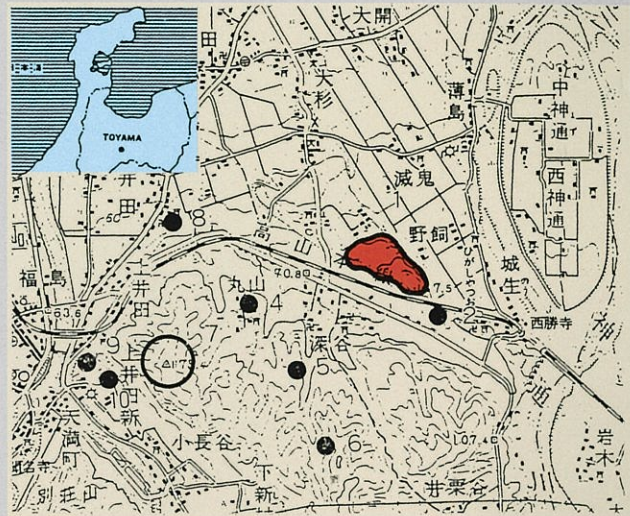
縄文時代の土偶のムラ 長山遺跡

ながやま

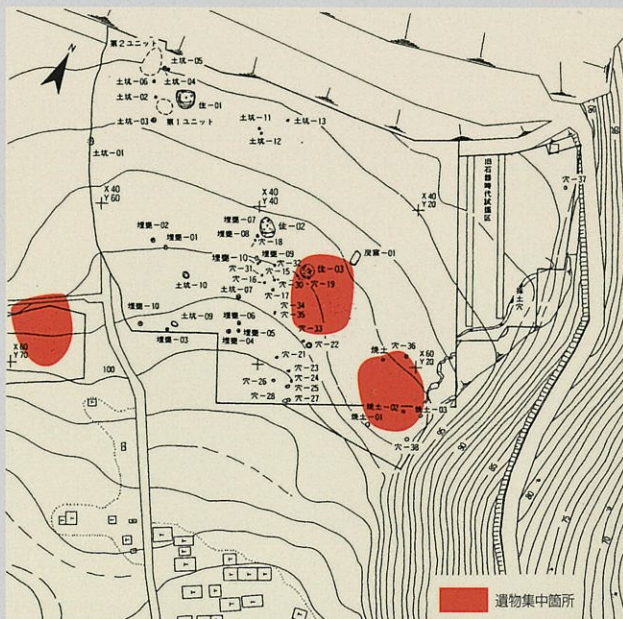
長山遺跡は、富山市八尾町深谷の南北約250m、東西約1km、標高100~110mの独立丘陵に位置します。昭和58年から昭和63年の6年間に民間の土取り事業に先がけて約7,000㎡の記録保存の発掘調査が実施されました。その結果、地点を変えて旧石器時代、縄文時代前期後葉、中期前葉、弥生時代後期、中世の砦（室町時代）などが複合する大規模な遺跡であることが確認されました。中でも注目されたのは土器捨場にされた谷から大量の縄文時代中期前葉、新崎式土器と伴にみつかった48体(49点)の土偶でした。県内でこれだけ多くの土偶がみつかった例は初めてでした。また、この時代の遺構は^{たてあなじゅうきよ}堅穴住居2棟、^{どこう}土坑20か所、^{うめがめ}埋甕10基があります。縄文中期の集落の中心は、未調査の台地中央部にあると考えられます。



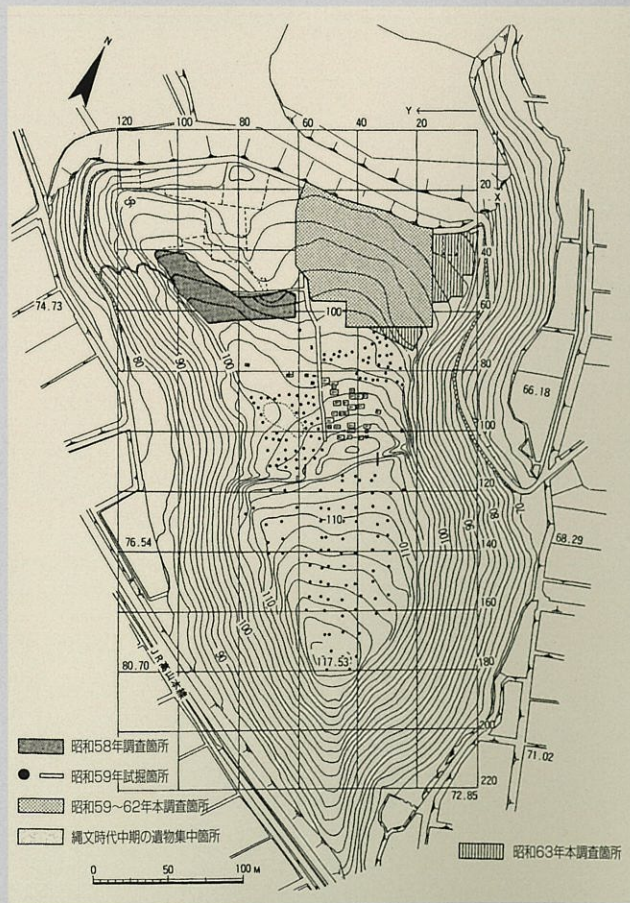
第2図 遺跡遠景(昭和62年ころ南西から)



第1図 遺跡の位置



第3図 遺構分布図



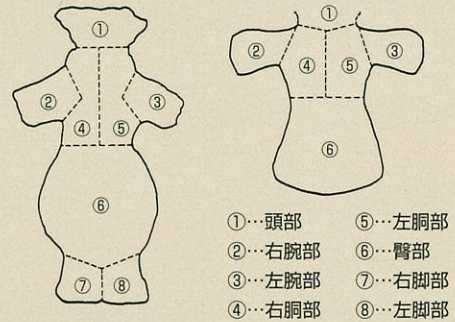
第4図 地形と区割図

大量にみつかった土偶

県内では縄文土偶が、約80遺跡から450点ほどみつかっています。これらは、縄文時代早期から晩期まで全時代を通してみつかった数です。

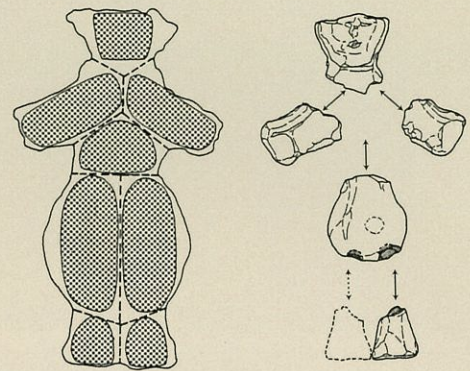
発掘調査をおこなっても1点もみつからない遺跡もありますが、普通は数点みつかります。長山遺跡では縄文中期前葉の限られた時期の土偶が49点みつかり、他の遺跡と比べてもその多さがわかります。この土偶は、頭の上が平でかっぱ ふうぼう河童に風貌が似ていることから「河童形土偶」と呼ばれています。

北陸から中部・関東・東北の一部まで広く分布します。また、これまでの土偶は板状で足が表現されていませんでしたが足が付き、立像となるものがみられるようになります。



- ①…頭部
- ②…右腕部
- ③…左腕部
- ④…右胸部
- ⑤…左胸部
- ⑥…臀部
- ⑦…右脚部
- ⑧…左脚部

有脚・板状土偶の基本部位名称

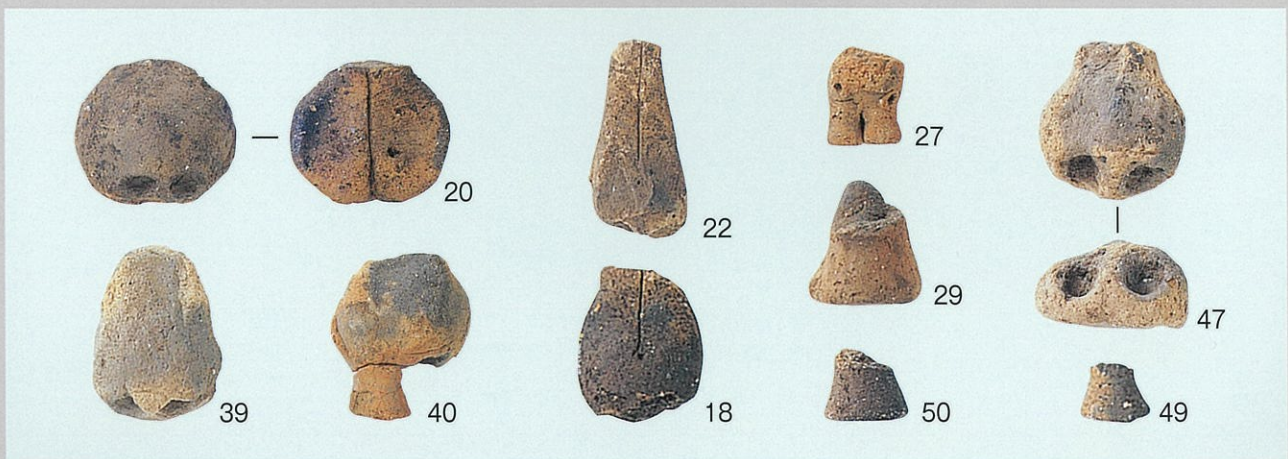


有脚土偶の基本製作手法

有脚土偶接合模式図

祈りの道具 土偶

土偶は女性を模っています。発生期の縄文時代早期（8,000年前）では、板状の十字架状の形で乳房が付けられ、足や顔・手などの表現が省略されたものでした。その表現は、縄文中期（5,000年前）になって妊娠した女性や足・目・鼻・口・耳・髪形などを象徴的にあらわすようになりますが、人を忠実に複写したものではなく、あくまでも縄文人たちの概念の中にある地母神・女神を表現したものと考えられています。女性を表現しているのは、豊穡と再生を祈念するためのと考えられています。しかし、完全な形に作られたはずの土偶は、ほとんど五体満足な出土例はありません。手や足・頭・胴がもげていたり、その一部分であったりします。また、取れている部分は土偶に傷をつけて外すのではなく「もぎ取る・割り取る」ように取りはずされています。





作り方（2ページ）をみるといくつかの粘土塊をつなぎ合せて作られ、足はソケット状にはめ込まれて分割しやすいように作られています。このことから土偶は人間の疾病や障害などを治すための身代わりとして故意に破壊されたと考えられています。

土偶は、作られてから祭式により損壊されると、その機能を終えて一般の廃棄物と同様にバラバラに捨てられることになります。

他地域の特徴をもつ土器

北陸を中心に広くみられる縄文時代中期前葉の新崎式土器の古いころは、蓮華文や「B」字状の半截竹管文、胴部に施される撚糸文・羽状縄文などを特徴としています。

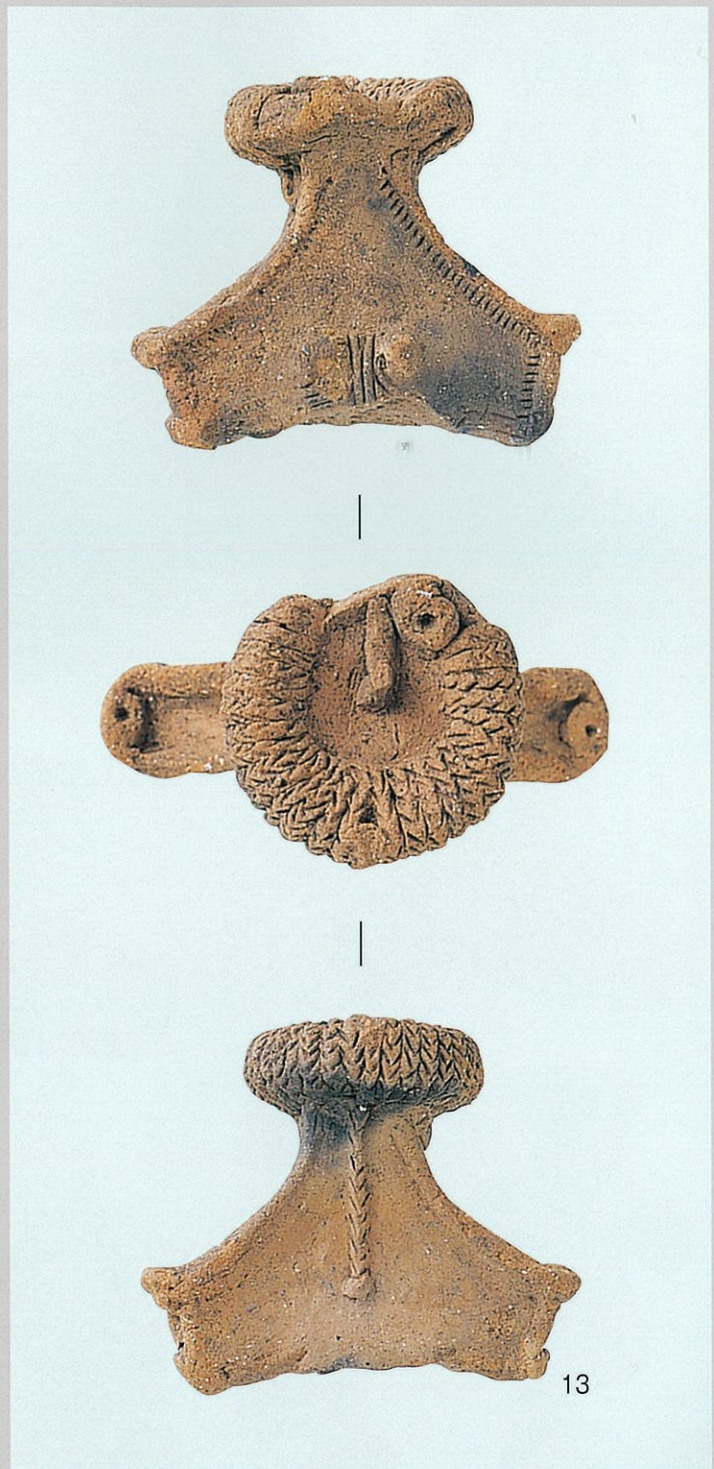
長山遺跡の土器はその特徴を持っています。また、その中に他地域の特徴を持った土器が伴ってみつかっています。

54は胴部上半部に縄文を地文とした集合沈線文を施し胴下半部に縦の結束縄文が施されています。

63は波状口縁の深鉢で胴部が球状に作られ、底部に向かってスカート状に開いています。また、球状の胴部には渦巻状や「Y」字状の沈線文が施され、胴下半では縦に4か所をすり消しています。54と63は特徴から関東地方の五領ヶ台Ⅱ式土器と考えられます。

58は口縁部に2列の列点文を施し、その間に爪形文を充填して、頸部には波状の列点文を施しています。胴部は撚りの粗い縄文を縦に施文しています。西日本にみられる船元Ⅰ式土器の特徴です。このことから長山遺跡の出土土器群が五領ヶ台Ⅱ式や船元Ⅰ式と関係していることがわかります。また、この二つの土器と長山遺跡の新崎式土器が同時代に使われたことを示しています。

このほかに小形土器・滑車形耳飾・舟形土製品がみつかっています。



13

土偶のムラからのおもな出土土器



長山遺跡の発掘調査



昭和58年度調査風景



発掘作業風景



発掘作業風景



土偶の出土状況



土器の出土状況



土器の出土状況



土器の出土状況



土器の出土状況

長山遺跡の発掘調査



埋甕出土地区全景



第1号埋甕検出状況



第7・8号埋甕



第5号埋甕



第5号埋甕断



第3号埋甕



第11号土坑



第1号埋甕断

長山遺跡の発掘調査



旧石器時代の遺物出土状況



作業風景



遺物出土状況



土坑内遺物出土状況



船元Ⅰ式土器出土状況



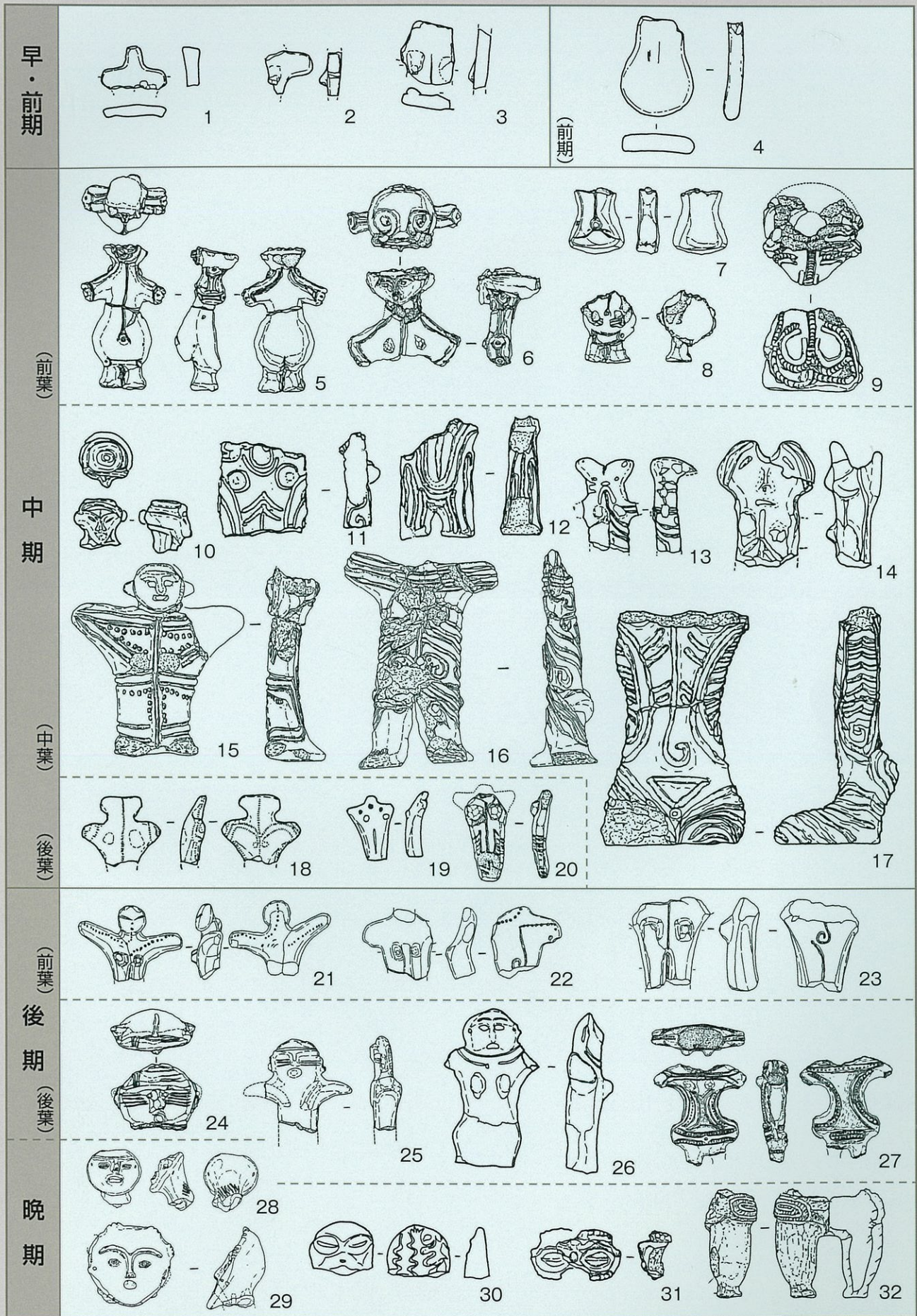
五領ヶ台Ⅱ式土器出土状況



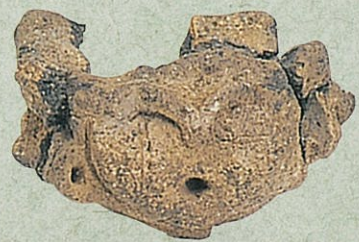
第2号竪穴住居遺物出土状況



第2号竪穴住居



富山県内出土の土偶変遷図(縮尺約1/6) 1~3南太閤山遺跡(射水)、4吉峰遺跡(立山)、5~8長山遺跡、9前山遺跡、10浦山寺蔵遺跡(黒部)、11下山新遺跡(朝日)、12竹林遺跡(南砺)、13・14松原遺跡(砺波)、15・16東黒牧上野遺跡、17片掛遺跡、18・19二ツ塚遺跡(立山)、20・24吉沢遺跡、21~23五百歩遺跡(南砺)、25・26中山中(石坂)遺跡(射水)、27桜町遺跡(小矢部)、28北代遺跡、29長岡八町遺跡、30石垣遺跡(魚津)、31境A遺跡(朝日)、32田家遺跡(黒部) ほかは富山市



縄文時代の土偶のムラ 長山遺跡

発行日 平成21年(2009年)2月20日

編集・発行 富山県埋蔵文化財センター
〒930-0115
富山市茶屋町206番3号
TEL 076-434-2814
FAX 076-434-2859

印刷 前田印刷株式会社